

化石燃料の使用を抑え、環境にやさしい放牧飼養の取り組み
～自然を守りながら「土－草－牛」を調和、高い飼料自給率を実現～

はんざわ

榛澤牧場(釧路市)



広大な草地で草を食むアンガス種

【組織等の概要】

- 経営主: 榛澤 保彦
- 所在地: 釧路市美濃15線156番地
- 経営形態: 肉用牛一貫経営(家族経営)
- 耕地面積: 採草地76ha、放牧地140ha
- 飼養頭数: 300頭
- 飼養種別: アンガス種
- 販売先: パルシステム等

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 父親の代から、ヒトが食べない食品副産物(醤油粕、大麦ふすま等)を牛に与えて肥育するのが肉用牛飼養の原点という考えを貫く。
- ◆ 輸入飼料に依存せず、農薬と化学肥料を使用しない有機飼料の生産、たい肥の放牧地への還元など、「環境負荷低減」や「飼料自給率向上」を実践しながら、「食品副産物の利用」で肉用牛生産に取り組む。
- ◆ 牛には抗生物質等の使用を極力少なくし、自然の生育に任せた草地で放牧するなど、「アニマルウェルフェア」も実践している。
- ◆ 化石燃料などを極力使用せずに肉用牛を生産するプロセスを大切にしている。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 飼料として複数の食品副産物を購入しているが、供給量が安定しないものも多く、必要量を確保するのが難しい。
- ⇒ 牛の食欲や嗜好性、整腸作用を注意深く毎日観察しつつ、食品副産物の混合割合を変えることで対応している。
- 近隣の農家から牧草収穫作業のサポートを受けていたが、有機飼料(JAS認証)を生産するために収穫機械の洗浄等管理が必要となるため、サポートを受けることが難しくなった。
- ⇒ 収穫作業を当牧場が管理する機械で行えるようにし、作業工程に係る管理記録の記載に手順を設けるなど、当牧場の誰もが収穫作業に対応できるように工夫した。

【取組の成果】

- 牛には主に有機飼料を与え、放牧中心でストレスを与えない飼養方法を実践するなど、農業の自然循環機能の維持増進を図る取組から、平成29年に有機畜産物JAS規格認証を取得。
- 製造や輸送に大きなエネルギーを使う配合飼料の購入をやめるなど、環境負荷低減対策としてエネルギー使用削減。



境界線が見えないほど広大な放牧地



食品副産物の一例(醤油粕)

【今後の展望】

- 環境負荷低減等の取組を更に向上させ、有機畜産の普及活動を通じながら、この地で持続可能な肉用牛生産を模索していく。
- 今後も再生可能エネルギー由来で生産した食料を供給できるように努めていく。

平成22年度
全国優良畜産経営管理技術発表会
最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞